

目白台図書館開館二十周年記念文集

私と目白台図書館

編集・発行 文京区立目白台図書館

文京区立真砂図書館
☎3815-6801



401603746

目白台図書館概要(その1)

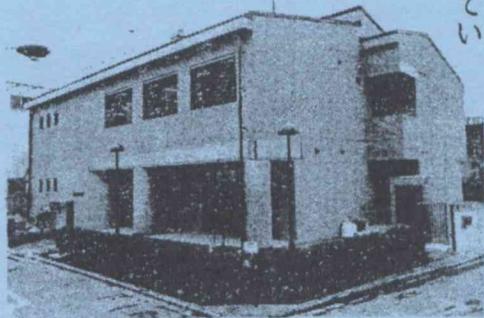
目白台図書館概要(その1)	1
「講演会」20年の歩み	3
谷 睦子(目白台在住)	7
多賀高明(目白台在住)	7
三井紀子(目白台在住)	8
山本舜一(目白台在住)	9
杉本采加(小学校6年)	10
しげ田ちひろ(小学校3年)	10
しげたかおる(小学校1年)	11
竹部 実(元目白台図書館職員)	11
梶原 貴美枝(新宿区在住)	12
岩田 保孝(目白台在住)	12
神谷 早苗(元目白台図書館職員)	13
伊藤 直樹・亜矢子・あかね(関口在住)	14
Y 生	15
尾上ゆみ(音羽在住)	16
中村利夫(目白台在住)	16
片桐智子(関口在住)	17

峰村 三枝子(目白台在住)	17
町田 好男(初代目白台図書館長)	19
藤本 久(目白台図書館長)	20
目白台図書館概要(その2)	20

※原稿は到着順に掲載しました。

目白台図書館概要(その2)

『目白台図書館は、区内で8番目の図書館として、昭和58年6月20日に開館した。地域の人々に久しく待ち望まれていた図書館である。貸出返却処理にはコンピュータ・リアルタイム処理方式を採用し、時代の最先端をゆく図書館として他区・他県からも注目を集めていた。』



開館当初の目白台図書館

地上2階・地下1階の明るいレンガ造りの館内は、書架・カウンター、床にいたるまで、木の素材を生かして、暖かく落ち着いた雰囲気を作り出している。また、身障者の方も利用できるよう入口のスロープ化、専用エレベーター・トイレの設置をはじめ拡大読書器や車椅子を常備するなどの工夫がこらされている。昭和59年3月発行の「文京区教育委員会・『教育概要』」ではこんな紹介がされました。

それでは、館内のご案内をいたしましょう・・・

◆地下：書庫(端末機で検索した時、「自倉庫」と表示された本・資料等を保管)、事務室

◆1階：一般図書、CD・カセット、CD等試験コーナー、拡大読書器、ブラウジングルーム(新聞・雑誌コーナー)、図書検索の端末機、コピー機、調べ物のための閲覧席(8席)

◆2階：一般図書(主に芸術・言語)、児童書コーナー(児童図書・絵本・紙芝居・児童

向CD等)、ジュニアコーナー 多用室(収容人員50名)、録音室、対面朗読室
 ※文京区の図書館では「資料収集の各館担当分野」を決めています。目白台図書館は「哲学・心理学・倫理学・宗教」と「絵画・書道・彫刻等の芸術」を担当しています。

蔵書数	昭59・3・31	平15・3・31
一般図書	二五, 四三三	七八, 七八六
児童図書	一〇, 八八一	二二, 八七四
CD等	一	一一, 三三七
貸出数		
一般図書	八五, 八八五	一五四, 八六八
児童図書	六八, 七三二	四〇, 九三一
CD等	一	五九, 一二四

※CDは昭和62年7月から貸出開始

回	実施日時	タイトル	講師
9	62・7・5 (日)	子どもと本の世界 ― 桃太郎を中心に ―	
8	61・11・16 (日)	家族って何だろう ― 親と子の精神分析 ―	法政大学文学部教授 岡崎 昇氏
7	61・6・3 (火)	アガサ・クリステイの世界	翻訳家・津田塾大教授 中村 妙子氏
6	60・12・1 (日)	暮らしから経済を見直す ― 生活水準とは何だろう ―	埼玉大学教授 暉峻 淑子氏
5	60・6・29 (土)	「食べること」にこだわりたい ― 有機農法・自然食の周辺 ―	鳥居ヤス子氏
4	59・11・4 (日)	読書への招待 ― ミステリー・ハードボイルドを中心に ―	翻訳・評論家 小鷹 信光氏
3	59・7・1 (日)	いま、俳句が面白い ― 脳と俳句のデュエット ― 「右脳俳句」	日本医科大学教授 品川 嘉也氏
2	59・3・24 (土)	わが町目白台の史跡と文学を訪ねて ― 関口芭蕉庵と松尾芭蕉 ―	文京区教育委員会文化財調査員 戸畑 忠政氏
1	58・12・15 (木)	子どもと本の世界	日本女子大学教授 安藤美紀夫氏

回	実施日時	タイトル	講師
10	62・11・1 (日)	「沈黙は金か・・・？」 ― 生きた会話でよりよい人間関係を ―	鈴木 新一氏
11	63・7・3 (日)	時代のキーワードを探る ― 新語、流行語に見る世相史 ―	「現代用語の基礎知識」元編集長 亀井 肇氏
12	63・11・5 (土)	短歌へのいざない ― 楽しみ方 あれこれ ―	国文学者・早稲田大学名誉教授 窪田章一郎氏
13	1・7・2 (日)	住まいにおける和洋折衷―スリッパの存在	日本大学家政学部教授 高橋 公子氏
14	1・11・19 (日)	江戸の特色	郷土史研究家 川崎房五郎氏
15	2・7・1 (日)	子どもの本とごちそうの話―子どもの本は 楽しい話とおもしろい話でいっぱい！―	子供の本の探偵・研究家 赤木かん子氏
16	2・11・18 (日)	明治の東京地図―東京は江戸のなれの果て	日本地図資料協会会長 師橋 辰夫氏
17	3・6・16 (日)	大正ロマンの華 竹久夢二	弥生美術館・竹久夢二美術館理事長 鹿野 琢見氏
18	3・7・7 (日)	夢二と彦乃―本郷と夢二―	” ”
19	4・7・5 (日)	男と女の会話を味わう ― 源氏物語をめぐる ―	実践女子大学教授 山口 仲美氏

31	30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20
9・11・21(金)	9・6・15(日)	8・11・17(日)	8・6・16(日)	7・11・19(日)	7・6・17(土)	6・11・20(日)	6・6・23(日)	5・11・21(日)	5・6・20(水)	5・6・17(日)	4・12・6(日)
文京の歴史的建造物を訪ねて	鬼平と音羽・目白台の切絵図を歩く	父・佐藤春夫の思い出	目白台文学散歩	水を接点とする文京の歴史	父・窪田空穂について	神田上水と松尾芭蕉	父・菊池 寛	坂のまちから見えてきたもの	永青文庫の歴史と名品	森 鷗外「鼠坂」を読む	日本近代地図文化の曙
建築家 伊郷 吉信氏	NHK文化センター講師 西尾 忠久氏	慶応大教授 佐藤 方哉氏	文京区文化財保護審議会委員 戸畑 忠政氏	文京区文化財調査員 清水 龍光氏	歌人 窪田章一郎氏	神田川芭蕉の会事務局長 大松 騏一氏	菊池寛記念館館長 菊池 英樹氏	「坂まち通信」編集長 小林 顕一氏	永青文庫事務局長 飯塚 成一氏	宇都宮大学助教授 小林 幸夫氏	日本地図資料協会会長 師橋 辰夫氏

40	39	38	37	36	35	34	33	32	回
14・11・10(日)	13・11・18(日)	13・6・23(土)	12・11・19(日)	12・7・2(日)	11・6・25(金)	11・6・19(土)	10・11・21(土)	10・7・5(日)	実施日時
女性ゆかりの寺―傳通院―	護国寺―その歴史と街並―	唱歌・童謡の歩みと小石川	「講談社文化」考	佐藤春夫と文京区	〃	雑司ヶ谷墓地に眠る人々―漱石・夢二から埋もれた市井の研究者まで―その1	だれにも教えたくない ―図書館利用マル秘心得帖―	姉・彦乃と夢二	タ イ ト ル
傳通院執事長 麻生 諦善氏	護国寺執事長・元文京区文化財調査員 小林 大康氏	元文京区文化財調査員 石井 昭示氏	森 彰英氏	帝塚山学院大学助教授 山田 俊幸氏	〃	多児 貞子氏 (たに)	川島 勉氏	笠井 千代氏	講 師

※第4回「講演会」のお知らせ

日時 15年11月16日(日)午後2時開会(午後1時半開場)

内容 独染(とくせん)という生き方―良寛の生涯と思想―

講師 武田 鏡村 氏(作家・日本歴史宗教研究所所長)

谷 睦子(目白台在住)

目白台図書館の皆様、開館20周年おめでとうございます。

もうかれこれ三年半近くになりますが、図書館まで徒歩10分という所にたまたま居を構える事になり、それ以来目白台図書館を良く利用させて頂いております。

図書館に行くところには人が一生かかっても学び切れない知の泉があり、そしてそれがすぐ近くにあると思うだけで生活に夢が広がり、充実いたします。

本にはパンや水と同じく、自分が人間として生きてゆくのに失くしてはならないもののような気がいたします。又、読書は私にとって時空を越えた出会いの場になっているようにも思います。時には自分と全く違う価値感の存在を知り愕然とする時もありますが、自分と寸分違わぬ価値感や当意即妙の字句を本の中で見つけ

た時の喜びは著者への共感ともなり、同時に自分とは人としてまだ成長できているのだと安心致します。心の糧と思っております。最後になりましたが、これからも目白台図書館のご発展をお祈り申し上げます。



私と目白台図書館

多賀 高朗(目白台在住)

目白台図書館が開館二十年を迎えた。その前年末に第二の人生を歩み出した私にとって、忘れられない記念樹である。

竣工するのを待ちかねて会員証を申請し、以来徒歩三〜四分の近さにある図書館には、毎日のように通いつめたものだった。

第二の人生の伴侶として『歴史研究』の道を選んだ私にとって、規模は小さいが内容は充実していて、歴史・人物史・地方史はもとより、

辞典・事典類も取りそろえてあって、その上リクエストすれば区内だけでなく都立の図書館からも取り寄せてくれる利便さはたまらない魅力であった。

ただ、この上欲を云えば、以前は館のおしらせ(『ともしび』と云ったか)を発行していたが、これなど今後また復活して頂きたいものである。

将来、三十年も四十年も益々充実・発展されることをお祈りしたい。



三井 紀子(目白台在住)

目白台に住んで60年以上になる父が、20年前にここに図書館が出来上がった折、自分の本をかなり整理し「利用していただけたら」と当時の初代館長さんに寄贈を申し出た時、大変快く私共の家まで車で取りにいらして下さったこと

がついこの間のことのように思えます。

その父も平成12年に93才で亡くなり、90才までの毎日の散歩コースであった目白台図書館は今では私の孫が利用する年齢になりました。

家から歩いて5分の静かな住宅街の中にあつて、新刊書・雑誌・CDまで利用出来、何でも親切に教えて下さる職員の方がそろい、いつも心豊かでいられることに感謝しております。

地域のつながりが改めて今大切になってきた21世紀。安心して子供達が利用出来、若いママ達のほっとする場にこの目白台図書館がなればいいなアーという願いを持って、水曜日「おはなし会」のボランティアを、大変微力ながら祖母レベルの感覚でお手伝いしています。

私の二人の息子が関台小(長男)・美登里幼稚園卒(次男)なのですが、当時彼らが大好きだった本が今も変わらず人気があり、その読み聞かせをさせていただいてみて、30年近い年月

の流れがあっても、子供達の目の輝きに「読書の力」の大きさを改めて感じるこの頃です。

私の孫達はかりでなく、未来ある文京区の子供達の成長に接することが出来て、今とても楽しみなのです。

ますます目白台図書館を「地域の宝」として大切にみんな育てていきたいと思えます。

私と目白台図書館

山本 舜一(目白台在住)

少年の頃は吉川英治の剣豪小説、青年になって司馬遼太郎の歴史物に夢中になったり、サラリーマン生活の往復の通勤時にも文庫本は手放せないほど読書好きでしたが、一九八六年春、当地に引っ越して来て以来、目白台図書館とのお付き合いが始まりました。

最初は作家、例えば池波正太郎に集中してそ

もキズで作動不能になっているものが混じっていたりすることがあり心を痛めております。多くの人が利用している訳ですから、ぜひきれいに使って欲しいものです。



杉本 采加(小学校6年)

私は小さいころからずっと目白台図書館にお世話になっています。学校の時は、一カ月に一度くらいしか行きませんが、夏休みなどの休みになると週に一度くらい行っています。

この間、5才の私のいとこと一緒に目白台図書館をおとずれた時に、いとこに紙しばいを読んであげました。いとこはとってもうれしそうに次のお話を探しにいきました。小さい子も読める字の大きな本や紙しばいなどおいてあるこの図書館はとってもいいと思います。次はもう少しマンガの本をふやしてほしいです。

の作品の全てに目を通すことから始まりましたが、一九九六年よりはその年に出た新刊書中心に切替え、読んだ書名・作者名・出版社名を必ず記録して置き、年末にその年の自己ベストテンを作成したりして楽しんでいきます。平均して年間一八〇から二〇〇冊読破していますから書き留めておかないと後で文庫本になって再出版された時、読んだものなのかまだなのか区別する上で役に立ちます。又、CDも好みの部分をテープに集成して自分のアルバムを作るのも楽しみの一つです。

目白台図書館も蔵書の数が増え、他の図書館との連携も充実し、最新の情報を早く入手出来るようになり、大変満足していますが、最近気になっていることを二、三あげてみます。

本に異物(米つぶとか食べ物のかす)がこびりついていることがある、鉛筆でマークをつけているものが目に入ることもあり、又、CDで

しげ田 ちひろ(小学校3年)

わたしは目白台図書館に14年4月にやって来ました。

わたしは目白台図書館の本が大好きです。とくに「まさかさかさま」が好きです。「まさかさかさま」は本をまさかさまにすると、ちがう絵が見えてくるし、「まさかさかさま」をはんたいからよむと「まさかさかさま」になるところがおもしろいです。

わたしは本が大好きなので、いろいろな本がよみたいです。

ひなぎくおはなし会るとき、雨がふっていてわたしと弟と妹とひとりのお姉さんの4人だけのことがありました。その時はたしか手品があったようなきがします。

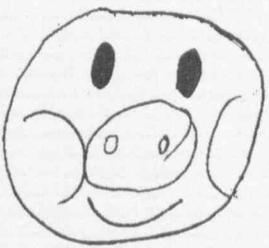
その手品がすごかったです。こんなすごい手品だったのに4人だけでぎんねんだったなあと思います。

わたしは2年生の時、毎日のように来ていたので、目白台図書館のことを少しは知っています。みんなに教えてもいいなと思います。

上げた かおる (小学校1年)
わたしがとしゃかんですきなほんやあそびをおしえます。

まず、ほんのことをおしえます。わたしがたまにかりるほんです。それは「なぞなぞのほん」です。

つぎに、あそびのことをおしえます。たまにあそぶのはあやとりです。これでしょうかいはおしめます。



このイラストは
かおるちゃんが
かいてくれました。

私と目白台図書館

「担竹ちゃんとしての日々」

竹部 実 (元目白台図書館職員)

目白台図書館ではジュニアコーナー担当 (J担) の竹ちゃんとして楽しい日々を過ごしました。「ジュニアコーナー通信」(後に「ステッブ」と改題) の主ボウ者、おりんさんが描くところのイラストは中高生に大評判をよんでいました。今でも、タンクトップでショートパンツ姿のキュートな女の子が朝顔に水やりをしているイラストが表紙をかざっている「さよなら夏休み号」は我が家の家宝になっています。

読者の中高生の皆さんも競ってイラスト付きの投稿を大量に出してくれました。図書館生活15年目に入って少々くたびれてきた中年竹ちゃんは、この皆さんのエネルギーをもらって元気が回復してきたのです。ヒトの一生の転換期にあたる思春期は、いつでもシンドイものです

がそんな時ほどエネルギーもチクセキされます。Jコーナー通信が、そんなエネルギーのささやかな解放区となったことは、チョッピリですがタケちゃんの自負にもなっています。

私の図書館

梶原 貴美枝 (新宿区在住)

新宿区に住まいしている私がこの図書館を知ったのは、まだ母が存命中の4〜5年前のことです。湯島天神の梅まつりに行きました時、真砂図書館でお借りした本を返す時になり、湯島は余りに遠くどこかないかしらと、探しました時、この図書館を知りました。

明るくて、何より職員の方々の親切で、優しい雰囲気がとても嬉しくて、すっかりお気に入りになってしまいました。

それからというもの、手当たり次第、毎月5

〜10冊ほどお借りする生活がはじまりました。我が家からは車で行きませんと、とても不便なのですが、車の下手な私が何のその、読みたい本のために週一回は通っています。

新刊をパソコンで調べてお願いし、お電話を待っている時のドキドキした気持ちは、きつとどなたも一緒ではないかしら。

乳母車のお母さんにもお声を掛け、家庭的なこの小さな図書館が今私の一番のお気に入りです。

私と目白台図書館

岩田 保孝 (目白台在住)

私が文京区立目白台図書館を利用するのは、同図書館の発足以来、現在まで毎月2冊づつのペースで単行本等を中心に借りる様に成り、利用して来たのである。特に学術的な分野の書物

を借りる時には、同図書館職員懇切丁寧なア
ドバイスを受けながら、国立国会図書館や都立
図書館等へのわずらわしい手続を気軽に引き受
けて下さった事に深く感謝して居るので有りま
す。また、同職員の方々がとても親切に検索に
応じて下さったり、書物を探して下さったりし
て大変助かって居るので有ります。

この様に同図書館を利用して載っている居
る一区民として、同図書館がますます区民の為
にご尽力され、発展されることを祈念しつつ、
職員の皆様にご心よりお礼申し上げて筆を終ら
せて載きます。



近所の文芸者
——本間久雄氏と佐藤春夫氏——
神谷 早苗 (元目白台図書館非常勤職員)
童話にありそうな目白台図書館に勤めて一年
余りでしたが、ご町内にお住みだった本間久雄
先生宅にも学生時代から約5年程伺ったことも
あり、思い出深い図書館となりました。

この機会に本間先生と先生からお聞きしたご
近所の佐藤春夫についても書こうと思えます。
本間先生のご講義では、ロセッティや晶子の
『みだれ髪』の装丁・挿絵の象徴性など文学と
美術と時代の関連を教えて戴き、最終講義では
ご自宅で、現在、早大図書館本間久雄文庫にあ
る明治の作家の自筆原稿や書簡を教材にした贅
沢な講義を私達は受けました。

大正時代の新進作家の佐藤春夫も、新進評論
家(民衆芸術運動、エレン・ケイ、ウィリアム
・モリスの「生活のための芸術・芸術のための

生活」を紹介した)本間先生も関口、高田老松
にすでに住んでおり、文壇消息には「目白駅か
ら右へ向う背の高いきもの姿の文士は佐藤春夫
と本間久雄の二人」と書かれ、また二人の間
にはオスカー・ワイルド作「ドリアン・グレイ」
の翻訳論争が起こり、結局、佐藤春夫が翻訳す
るという出来事もあったといえます。

文芸思潮研究者の本間先生がご生存なら、こ
の図書館担当の哲学・芸術の棚をみながら濃厚
で長身な紳士が職員に接しているお姿が目には
浮かびます。



図書館大好き!!!

伊藤 直樹・亜矢子・あかね (関口在住)

目白台図書館、20周年おめでとございます。
娘は生まれる前から目白台図書館にお世話に
なっています。切迫早産の時、図書館から大量
に本をお借りして、苦しい夏を乗り切りました。
貸し出し冊数制限がないので助かりました。

1ヶ月健診の記念撮影も図書館前でパチリ。
抱っここの頃も、毎週のように図書館へ。

そのためか、生まれて初めて靴を履いて玄関前
に立った時、自分からトコトコ走っていった先
は図書館でした。

いつも職員の皆さんに声をかけて頂き感謝し
ています。今も寝る前には毎晩、図書館でお借
りした絵本を読んでいます。

どうぞこれからも地域の明るい図書館でいて
ください！

あかね父母

「誕生日だから図書館大きくなったかな。」
「図書館でパパと『ぐりとぐら』読んだの楽しかったです。」

「図書館の先生たちとラクーアに行きたいです。」
「図書館でボール投げしたいです。」

あかね

Y 生

都心にあって、静かで、緑に囲まれた、大きすぎず、明るくて、なによりも職員の方々が親切で、居心地のいい図書館があればよいのにという理想を持つ人がいらしたら・・・

そうです。目白台図書館へお連れしましょう。私は文京区、練馬区、武蔵野市の図書館を利用させていただいておりますが、本来あるべき姿の図書館が、少なくなってしまうました。

時には、幼児の運動場になったり、若いママ

の怒鳴り声だったり、ケータイだらけだったりして、ついつい足が遠くなってしまいますが、ここだけは正しい図書館です。

そして、地域密着の講演会もあって、いっそう身近な思いがいたします。

この目白台図書館で受けました恩恵はとても計りしれませんが、中でも先日お亡くなりになられた古今亭志ん朝師匠のCD30枚をすべて調達していただきましたことは感謝感激でございます。

そんな何一つ不満もないのに、わざわざここに書くのははばかれるのですが、唯一要望したいことがございます。それは、CD棚のあり方です。最下段とその上の段は何とも見づらいのです。職員の皆様も毎日整理に大変なご苦労がしのべれます。

どうぞいつまでもこのままの目白台図書館であってください。

尾上ゆみ(音羽在住)

私の一番好きな場所は図書館だ。引っ越しをする時、まさきに図書館を探す。図書館がなかったら、私の存在もないくらい、お世話になってきた。

子供の小さな頃は、お話し会や小さな劇をよく観に連れていった。クリスマスになるとサンタさんから、嬉しいお菓子のプレゼントも。

親子二人ですとマンションの箱の中にいたら、ちっ息死していたかもしれない。図書館は救世主だ。居心地のよい図書館を見つけると、少々遠くても自転車に乗って子供とでかけた。陽があたり、そよそよした風が窓から入ってくる。熱心に絵本を読んでいる子供。ぼんやりその姿をながめている、私。最高の至福の時。

朝、夫とケンカしたこともすでに昔のことだ。夫が帰宅したら、お帰りなさいって飛びつこう。きっと、びっくりするだろう。図書館には、心

を元気にする薬がいっぱい常備してある。利用価値、大、なのだ。



目白台図書館と私

中村利夫(目白台在住)

以前、自分の本でないと読むことのできなかつた私は、ついつい読まない本まで買いこみ、ためこんで、二度まで家の根太を抜いた。

そんな私が、自分のものでない本を読めるよう学習できたのは、ひとえに目白台図書館のおかげ、というほかない。おそらく開館当初から通いはじめ、お世話になりつづけているのだろう。

のべ何冊、読んだことになるか。借りた本すべてを読めているわけではないが、毎週のように通いつづけて、ミステリーの類ばかり借りているのが、私である。

人生は短い。あの本を読めば、この本が読めなくなる——誰がいったのか忘れたが、嫌いで、好きな言葉だ。これは面白そうだが、あれも読んでおきたい・・・そんな思いを楽しみながら、この先まだ、何年も、目白台図書館の書棚の前に立ちたいものだ。



目白台図書館は

私の趣味です

片桐 智子(関口在住)

目白台図書館はわたしたちの街にある小さな図書館です。異なる館種、たとえば国会図書館、大学図書館、ITを駆使した最先端の電子図書館が有益であることは、言うまでもありません。ですが目白台図書館は、まさに公共図書館のミッションを具現化した、理想の図書館なのです。環境、規模、蔵書、サービスなど、すべて

が見事にプレゼンされ、絶妙の味わいに満ちています。20年経っても色褪せることなくますます輝くその魅力・引力の前に、私は利用者からヘビーユーザーへ、そしてすっかりマニアとなつてしまいました。

目白台図書館を抜きにして、私の毎日は語れません。私だけでなく多くの人の人生がここに あることでしょう。

まさしく生活の一部に溶けこんでいる目白台図書館とともに、これからも歩んで行きたいと願っています。

峰村 三枝子(目白台在住)

朝六時半、爽やかなラジオ体操の声で三々五々、近くの子どもたちからお年寄りまで、児童公園に集まってきました。夏休みのラジオ体操会です。

少子化のせい或少しずつ減っていた地域の子どもたちが今年は多く集まりました。勿論図書館で顔みしりの子どもたちばかりです。

私たちがこの地域に図書館をとの願いを込めて走りまわった日から20年たちました。

図書館を利用する区民・地域の人は他館に比べて多いのではないのでしょうか？ 高台の狭いここ目白台、何処へ行くにもバス・電車を利用しなくてはならない土地柄故、目白台図書館の果たした役割は、決して小さいものではありません。特に夏休みの自由研究など、ここを訪れ資料を調べていく小・中学生はずいぶん多いと思います。幼児から大人まで図書館の扉を押す人がどんどん増えています。

朝、新聞をゆっくり読みたいからと訪れる方もいます。20年たつて此処に定着、なくてはならない存在になって来ています。

小さい図書館故、学習する所もなく、ゆっく

り落ちついて学習できる場所があれば良いと思うのは欲ばかりかもしれませんが、現在オンラインによって欲しい資料もすぐ手にいれることもできます。インターネットで見つけ、それを探しに図書館へ行くというパターンがこの地域に根ざした活動です。

当時、この地域はそれぞれの家で学習できるから図書館よりも他の施設をと望んでいらつした方も、今ではなくてはならない場所として図書館を本当に喜んで利用されていると思えます。

この土地を喜んで提供して下さった松岡様の志も生かされ、本当に良かったと改めて感慨にふける此の頃です。



町田 好 男 (初代館長)

時の流れは早いもので、目白台図書館が誕生して二〇年が経ちました。いわば成人式を迎えたわけで、心からお祝い申し上げます。

この間、多くの地域の方々や職員に育まれて今日に至ったことを思うと感慨深いものがあり改めて関係者の方々に感謝申し上げます。

当時、目白台地区には公共施設がほとんどなく、地域の方々の熱心な活動で出来た図書館は大変貴重な施設でした。

私達も、多くの方々に親しまれる、地域に根ざした手づくりの図書館創りに汗を流したことが、つい先頃の出来事のように懐かしく思い出されます。開館時、四〇〇〇に満たなかった資料が現在三倍以上の十二万になろうとしているそうです。

近隣の方々から「SD撰書 (鹿島出版会) 」

全巻、「暮しの手帖 (暮しの手帖社) 創刊号から全など、貴重な資料をご寄贈いただき、隙間の多かった書架に並べた時の蔵書の深みを誇ると同時に、温かいご支援に感激した鮮烈な感動は今も忘れることができません。

また、開館間もなく教育委員と利用者の懇談会に出席していただいた方が、二〇年後の今、ボランティアとして、図書館運営に大きな力を発揮していただいていることを聞き、懐かしさと同時に地域の方々の図書館に寄せる懐いのすばらしさに改めて敬意を表したいと思います。

小さく生んで (目白台図書館は比較的規模が小さい) 大きく育てるといふ願いが実を結び、今日の目白台図書館の成長を目の当たりにして大変嬉しく思います。

社会経済状況の変化と共に、図書館のあり方も変わりつつありますが、図書館は利用者と共に手を携えて創り上げていくものであることは

時代をこえて不変です。目白台図書館が今後も地域の方々と共に、この地に大きく根ざし成長されることを願っております。

文庫発行にあたって

藤 本 久 (目白台図書館長)

「行きたくなる図書館」とは、そこに充実した本や資料があり、知的欲求が満たされ、そこに親しみと人間の温もりがある・・・寄せられた原稿を読ませていただき、そのことを実感いたしました。また、それぞれの方々の図書館との関わりに、人生の重みと豊かさを垣間見る思いがいたしました。

子ども達も「図書館大好き」の楽しい作文を書いてくれました。

この文集が、20年という大きな節目を迎える中で、利用者のみなさん・地域のみなさんと共に歩む絆の役割が果たせたらと願っております。

あらためて、たくさんのお原稿をお寄せいただいたみなさんに心からお礼申し上げます。

目白台図書館行事・催し物のご案内です。

◆講演会：「地域密着型」で年一回実施

◆子ども会：工作会・クリスマス子ども会・ひなまつり子ども会など年5〜6回実施

◆子ども映画会：夏休み・春休みに実施

◆おはなし会など：毎週一回 (水曜日) 実施

9月より、毎月一回、0歳〜3歳を対象に「はじめのいっぽー」を予定

◆幼稚園・保育園・児童館・育成室・小学校などを対象に図書館見学、出張おはなし会、団体貸出を実施、寿会館にも団体貸出実施

◆図書館図書等のリサイクル：毎月第4土曜日

◆図書館ボランティア制度 (ライブラリーパートナー)。詳細はお問い合わせください。

0-40019528 k101



目白台図書館開館二十周年記念文集

私と目白台図書館

編集・発行

文京区立目白台図書館

文京区関口三十七一九

電話 三九四三―五六四一